

生成 AI パスポート公式テキストの誤りについて

生成 AI パスポート公式テキスト（2025 年 10 月 3 日 版）において誤りがございました。読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。訂正してお詫び申し上げます。訂正箇所は以下の通りです。

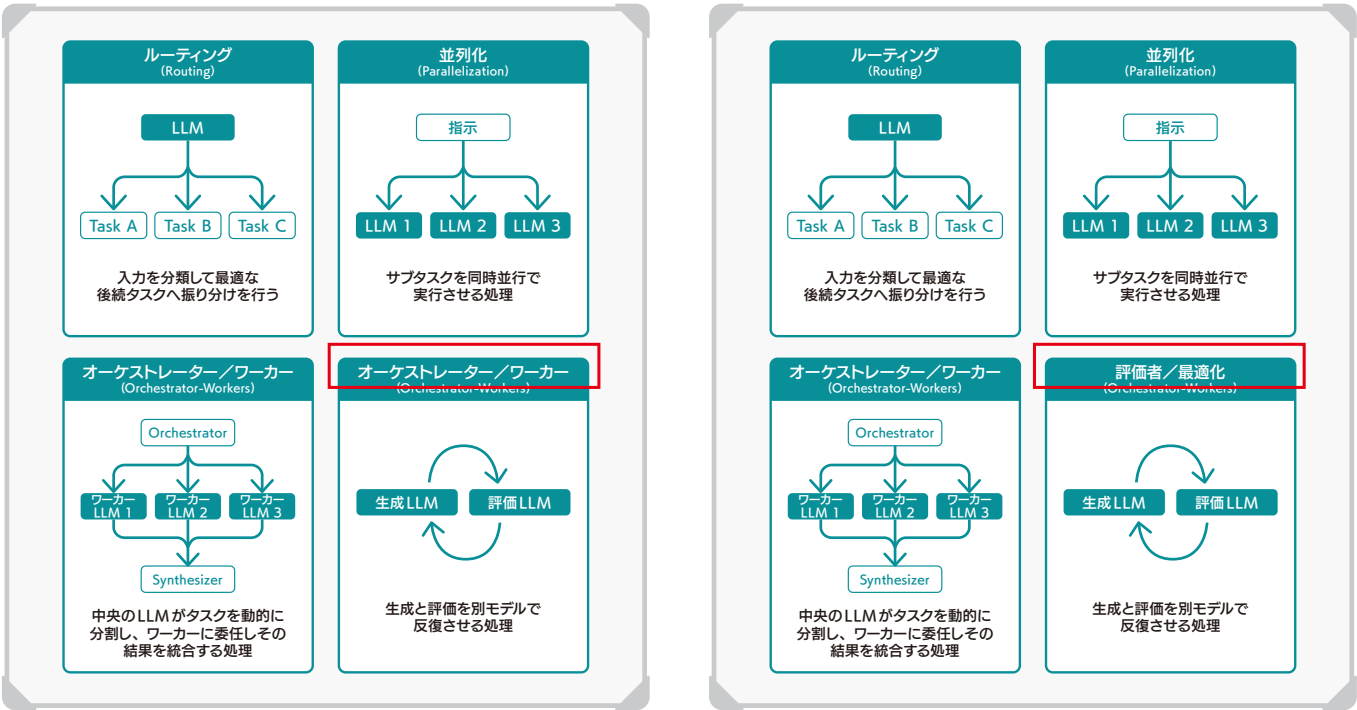
訂正箇所

| シラバス（詳細キーワード） | |
|---|--|
| 誤 | 正 |
| RLHF（Reinforcement Learning from Human） | RLHF（Reinforcement Learning from Human Feedback） |
| …GPT-4.1、GPT-5、Operator、Codex、… | …GPT-4.1、GPT-5、Sora、Operator、Codex、… |
| ユーザーエクスペリエンス | 削除 |
| クラウドストレージ | 削除 |

| シラバス（学習項目） | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 誤 | 正 |
| …GPT-4.1、GPT-5、Operator、Codex、… | …GPT-4.1、GPT-5、Sora、Operator、Codex、… |
| 深層偽装（ディープフェイク）の危険性を理解する | 深層偽造（ディープフェイク）の危険性を理解する |

| 生成 AI パスポート公式テキスト 4 0 ページ | |
|-------------------------------------|--|
| 誤 | 正 |
| 1997 年にザイガー博士とシュミットヒューバー博士によって初めて提唱 | 1997 年にホッホライター博士とシュミットヒューバー博士によって初めて提唱 |

| 誤 | 正 |
|----------------|---------|
| オーケストレーター／ワーカー | 評価者／最適化 |



| 誤 | 正 |
|---|--|
| 第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 1 生成 AI (ジェネレーティブ AI) とは | 第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 1 生成 AI の誕生まで |

第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 1 生成 AI (ジェネレーティブ AI) とは

02

自己回帰モデルとディープラーニング(深層学習)

1990 年代から 2000 年代にかけて、自己回帰モデルとディープラーニングの技術が進展しました。自己回帰モデルは過去のデータを使って次のデータを予測する方法であり、時系列データの予測に対して特に効果的です。例えば、株価や天気な

| 誤 | 正 |
|--|--|
| 第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 2 ChatGPT | 第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 3 その他の主要生成 AI |

第 2 章 生成 AI (ジェネレーティブ AI) section 2 ChatGPT

02 Claude

Claude は、安全性を最優先に掲げる Anthropic 社 が開発した生成 AI ファミリーです。「Constitutional AI」と呼ばれる独自の訓練手法によって、モデル内部に「有害でない・役に立つ・正直である」という価値観を組み込み、出力の一貫性と透明

| 誤 | 正 |
|--|---|
| 第 3 章 現在の生成 AI (ジェネレーティブ AI) の動向 section 2 ディープフェイク (深層偽造) 技術 | 第 3 章 現在の生成 AI (ジェネレーティブ AI) の動向 section 1 生成 AI ができると主なサービス |

第 3 章 現在の生成 AI (ジェネレーティブ AI) の動向 section 2 ディープフェイク (深層偽造) 技術

04 音声生成 AI

音声生成 AI (または音声合成 AI) は、コンピュータプログラムを使用して**音声**を生成する技術です。大量の音声データを使用してディープラーニングモデルをトレーニングします。トレーニング内容は複数あり、それらを組み合わせることで学

| 誤 | 正 |
|---|--|
| 第 4 章 情報リテラシー・基本理念と AI 社会原則 section 5 AI を取り巻く理念と原則・ガイドライン | 第 4 章 情報リテラシー・基本理念と AI 社会原則 section 6 AI 新法 |

第 4 章 情報リテラシー・基本理念と AI 社会原則 section 5 AI を取り巻く理念と原則・ガイドライン

「ディープフェイク」技術により、偽・誤情報が大量に拡散されています。特別な知識、技術、設備がなくても精緻な偽画像・偽情報が作成できるため、深刻な被害が続出しています。

2. 犯罪への悪用 サイバー攻撃、詐欺、なりすましなど、AI を悪用した犯罪が急増しています。従来の手法では考えられなかった巧妙な手口が次々と生まれ

| 誤 | 正 |
|----------|-----------|
| 肖像権侵害の防止 | 肖像権侵害の防止策 |

12 肖像権侵害の防止

生成 AI の利用における肖像権侵害の防止策として、例えば、以下のことが挙げられます。

- 前述の①～③に該当する態様での生成 AI が生成した著名人の肖像・氏名等を含む生成物の利用を避ける
- 生成 AI が生成した著名人の肖像・氏名等を含む生成物を利用する前にその著名人に許可を取る

| 誤 | 正 |
|-------|------------------|
| 四肢択一式 | 四肢択一式（一部複数選択を含む） |